

平成24年度
教育委員会活動の点検・評価報告書



知名町教育委員会
平成25年9月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成19年6月に「地方教育行政の組織および運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられた。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行いました。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で5回目となり、前回平成23年度の点検・評価を踏まえ、同様に評価項目を4段階での数値評価とした。前回は教育委員会関係と学校教育関係の2項目とし、今回の評価項目は、社会教育関係、公民館関係、図書館関係について、教育委員5名による自己点検、自己評価を実施した。平成25年7月の定例教育委員会で結果を集約し、同日開催の評価委員会において、評価委員3名と話し合いを行った。後日、評価委員に意見をいただき、集約したものを本報告書に入れ、平成25年9月の第3回定例議会で報告することとした。

- (1) 社会教育関係では、評価項目を「(1) 社会教育指導体制の充実」「(2) 青少年教育の充実」「(3) 芸術文化活動の促進」「(4) あしびの郷・ちなの活用」「(5) 文化財の保存活用」「(6) スポーツ・レクリエーションの推進」の6項目について、点検評価を行った。

生涯学習課の年間の行事、各種協議会開催内容、文化活動、文化財の活用、スポーツ大会開催状況やそれらの資料、課長の説明質疑をもとに、4段階の数値に

よる評価と記述による意見をまとめた。

- (2) 公民館関係では、評価項目を「(1) 公民館講座の充実」「(2) 自治公民館長研修会の充実」「(3) 短歌コンクール実施」「(4) 町民作品展示会の開催」「(5) コミュニティーづくり推進協議会の開催」「(6) 成人式の実施」の6項目について点検評価を行った。

町公民館の年間をとおした各種講座の継続など、各種事業の開催状況やそれらの資料、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

- (3) 図書館関係では、評価項目を「(1) 図書館運営の充実」「(2) お話宅配便の充実」「(3) 図書館まつりの充実」「(4) ブックスタートの充実」「(5) お話の時間の充実」の5項目について点検評価を行った。

お話宅配便の実施など、図書類の年間をとおした活用推進、各種事業の開催状況について、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

II 点検・評価結果

1 社会教育関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 社会教育指導体制の充実	社会教育指導体制の充実を図り、町民の多様な学習要求に応えて、学習機会の拡充と学習の気運づくりに努めているか。	3.1
	(反省・意見)	
	社会教育法に基づき、社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸立案や意見交換を行った。	
	社会教育委員会が年1回しか開催されていない。	
(2) 青少年教育の充実	家庭や地域の教育機能の活性化を図り、実践活動を通して、豊かな心をもった青少年の育成と自主活動ができる青少年団体の育成を図られているか。	3.4
	(反省・意見)	
	青少年育成連絡協議会(年4回)を開催し、地域こども会活動の活性化を図った。	
	青少年にふるさとのよさを再発見させ、地域ぐるみで青少年を育てる気風づくりを促進するため、青少年ふるさと美化活動を実施した。	
	活力ある地域作りを目指し、主体的に取り組むジュニアリーダーを養成するため、中学生2名を「大島地区ジュニアリーダー研修会」に参加させた。	
	青少年の健全育成を目指したPTA活動のあり方について研究協議をするとともに、会員相互の資質の向上と連携を深めることを目的とした「知名町PTA研究大会」を実施した。	
	住吉貝塚について学び、ふるさとの歴史・自然環境にふれるとともに、活動を通して自分のふるさとに誇りをもてる子どもの育成を図るため、「えらぶっ子のつどい」を実施した。	
	ふるさとの豊かな自然環境にふれるとともに、地域における実践的な子ども会活動のあり方やリーダーの役割等について研修し、リーダーとしての資質向上を図るため、沖泊海浜公園で小学5～6年を対象にサマーキャンプを実施した。	
知名町の児童生徒の優れた個性を発見し、これを表彰(知名の子表彰)することによって、心身ともに健康な青少年の育成を図ることを目的として、町内でがんばっている小学生・中学生・高校生の30名、3団体を表彰した。		
(3) 芸術文化活動の促進	町民の多様な芸術文化活動を支援するとともに、芸術文化団体及び知名町の文化を担う青少年の育成強化を図られているか。	3.6
	(反省・意見)	
	文化協会主催(教育委員会共催)による「五月の祭典」を開催し、芸術文化団体に舞台発表の機会を提供した。	
	生涯学習フェスティバルにおいて、文化協会加盟団体による舞台芸術発表会及び公民館講座生による舞台発表・作品展示を行った。	

	<p>青少年・一般の演奏技術の向上と発表の機会の舞台として、沖永良部音楽コンクールを開催した。</p> <p>知名町の文化を担う青少年の育成強化を目的とした「子ども芸能祭」を開催した。</p> <p>地域独自の文化である島唄島ムニを保存継承するため、「島唄島ムニ大会」を開催した。</p>	
(4) あしびの郷・ちななの活用	<p>あしびの郷・ちななの効率的な運用と自主文化事業による住民参加型事業・鑑賞事業等の拡充が図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>あしびの郷・ちなな自主文化事業として、下記の民謡・クラシック・演劇・ミュージカル等多彩なイベントを行った。</p> <p>5月12日にNHK交響楽団メンバーと日本のトップアーティストによる音楽世界一周の旅コンサートを実施し、クラシック音楽鑑賞の場を町民に提供した。</p> <p>6月23日に津軽三味線の高橋竹童をゲストに迎え、沖之永良部民謡協会設立30周年記念「民謡の花束“先祖心”公演」を実施した。</p> <p>8月25月に鹿屋市の高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」で知られる松永太郎さんが脚本・演出を手掛けた町民創作ミュージカル「えらぶ百物語」公演を行い、新たな舞台芸術作品を創造するとともに、心温まるストーリーと演技で客席を感動の渦に巻き込んだ。</p> <p>物語は、えらぶ百合産業の祖として知られる実在の人物「アイザック・バウンディング」に光をあて、松永さんが史実に創作を加え、得意のファンタジーをたっぷり織り交ぜて書き上げた。観客は、100年前の沖永良部で繰り広げられる、アイザックと島の娘ナミとの悲恋に涙し、出演者のはつらつとした演技に大きな拍手と惜しみない賞賛を送った。</p> <p>町民創作ミュージカル「えらぶ百物語」は今回三回目の公演であったが、今後も、舞台芸術の素晴らしさを伝えて行くために、町民参加の創作劇等を上演していきたい。</p> <p>10月15日に劇団道化による「吉林食堂」を上演し、中学生に演劇鑑賞の場を提供した。また、劇団道化のメンバーと中学生が共演し演劇の楽しさを学んだ。</p> <p>11月1日に西日本文化協会による学校公演～津軽三味線・ヴァイオリン・ピアノ～を実施し、町内の児童に音楽鑑賞の場を提供した。</p> <p>平成25年2月16日に今年で12回目となる「南西航空音楽隊ファミリーコンサート」を実施した。コンサートでは、生バンドにのせ4組がカラオケに挑戦し、生の演奏を鑑賞するだけではなく、交流を図りながら町民の文化向上に資するコンサートとなった。ファミリーコンサートについては、来年以降も南西航空音楽隊と共同企画し実施していきたい。</p>	4.0
(5) 文化財の保存活用	<p>歴史的な文化遺産や伝統芸能、埋蔵文化財の調査・保存・啓発活動は推進されているか。</p> <p>(反省・意見)</p>	

	<p>全郡で取り組んでいる「奄美遺産」探しの一環として正名集落の遺産調査・リスト作成を実施し、地域遺産の掘り起こしを図った。国指定史跡住吉貝塚の地域住民説明会・整備検討委員会を開催した。</p> <p>史跡めぐりや講習会、子ども会の体験事業を通して町内の文化財の普及啓発を図った。</p> <p>町指定史跡「屋者琉球式墳墓」の測量・確認調査を実施した。今後、年次的に町指定トゥール墓の調査を実施する。</p> <p>開発に伴う神野貝塚の確認調査及び地下ダム関連分布調査等を実施した。</p>	3.6
(6) スポーツ・レクリエーションの推進	<p>町民のニーズに対応したスポーツイベントを開催し、町民参加型の拡充に努めているか。また、スポーツや健康づくりに関する情報を提供し、生涯スポーツの普及に努めているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>町民すべてが一堂に会し、スポーツやレクリエーションを通して健全な心身の鍛練と、融和や団結を図ることを目的として町民体育大会の開催準備を進めていたが、相次ぐ台風により多くの家屋等に被害が発生したため中止となった。</p> <p>町体育協会に所属する各種スポーツ連盟がスポーツ大会を開催した。</p> <p>スポーツ少年団によるサッカー・バレーボール等各種大会を開催した。</p> <p>10月28日にボルカ鹿児島県の選手5名を招へいして町内の小・中・高校生を対象とした「町民サッカー教室」を開催した。</p> <p>駅伝を通して、スポーツ活動の振興図り、両町の親睦・交流を深めることにより、活気ある島づくりに資することを目的とした「沖永良部島内一周駅伝競走大会」を11月11日に実施した。</p> <p>奄美が日本に復帰したことを記念して郡内市町村持ち回りで開催されている「日本復帰記念大島地区駅伝競走大会」が、12月9日に知名町において郡内各市町村から男子14チーム、女子11チームが参加し開催された。なお、知名町は、男子4位、女子6位であった。</p> <p>町民の親睦・融和を図るため、平成25年1月2日に「町内一周駅伝競走大会」を実施した。</p> <p>2月18日にロンドンオリンピックボクシング・ミドル級金メダリスト村田諒太選手が来島し、あしびの郷・ちなに於いてスポーツ講演が開催された。講演では、恩師である武元前川氏（本町正名出身）とのエピソードや金メダルを獲得するまでの経緯について話され感動的な講演会となった。</p> <p>2月28日に町内の60歳以上の高齢者を対象とした「いきいき健康スポーツ大会」を開催し、37チーム、222名が参加した。</p> <p>知名町に適した総合型地域スポーツクラブの設立。</p>	3.5

日本における生涯スポーツ社会の実現を掲げて、文部科学省が実施するスポーツ振興施策で、幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブ。文科省の計画では、「全国各市町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブをおく」としているが、本町は、まだ設立されていない。今後、本町に適した総合型地域スポーツクラブの設立に向けた取り組みを展開していく。

2 公民館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 公民館講座の充実	公民館は、町民が生涯の各時期を通して学習の機会が得られるように配慮しつつ、町民のニーズに対応するべく多様な講座、教育等を提供する。また、学習意欲を高め、自主的、主体的な学習活動への参加促進を図った。白百合大学校 1教室 受講生 38人 中央公民館講座 14教室 受講生 196人 地区公民館講座 2教室 受講生 35人 短期講座 2教室 受講生 31人 自主講座 2教室 受講生 22人 総勢 公民館講座 314人です。	3.7
	(反省・意見) 公民館講座に於いて、各教室とも自発的に充実した習い事が出来ているが、白百合大学校においては、講師依頼がスムーズにいかない等苦慮しているようなので、その方法について再度検討が必要である。また、毎年、次年度へ向けた講座内容等の検討会が持たれていないので、本年度から検討会を持つようにする。	
(2) 自治公民館長研修会の充実	事例発表を交えた自治公民館長（区長）研修会を開催、集落がかかえている問題等について検討が図られているか。	3.1
	(反省・意見) 毎年字持ち回りで研修会を行っている。字の問題等関係には、積極的に意見、質問等がありますが、その他については、把握しているのか、意見等があまりないので、今後どのように進めていくか検討しなければならない。	
(3) 短歌コンクール実施	応募総数573点、小学生の部（344点）、中学生の部（226点）、一般の部（3点）があり、それぞれ短歌大賞・優秀賞・奨励賞・入賞を選出し、毎年11月に生涯学習フェスティバルで表彰及び展示をしている。	3.3
	(反省・意見) 現在、底辺拡大の一環として、小学校から短歌に親しんでもらう為にコンクールへの出品を募集しておりますが、小学生・中学生は多いが、一般の応募が少ない。今後一般の方々の興味を喚起し、応募が多くなるように推進しなければならない。	
(4) 町民作品展覧会の開催	中央公民館の展示コーナーに作品が展示されているか。	3.1
	(反省・意見)	
	竹細工コーナーに竹細工が展示されるよう提供した。	
	公民館講座の作品を展示した。	

(5) コミュニティーづくり推進協議会の開催	重点実践事項の協議及び町民の実践「申し合わせ事項」の審議、平成21年度から、年度末の2月頃に開催し、次年度の方針を決めることになったが守られたか。	3.0
	(反省・意見)	
	重点実践事項の協議及び町民の実践「申し合わせ事項」については、まだまだ町民に浸透するには、時間がかかるようである。	
(6) 成人式の実施	対象者 79名中、69名参加、男 28名、女子 41名 平成25年1月2日に、おきえらぶ文化ホール「あしびの郷・ちな」で開催	4.0
	(反省・意見)	
	毎年成人式には、新成人者で司会、アトラクション等を計画させ盛上がりを見せています。また、記念植樹も行い毎年90%以上の方々が参加されております。	

3 図書館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 図書館運営の充実	職員 館長(生涯学習課長・公民館長兼任)1名 司書 1名 臨時職員 1名 パート 2名 休館日 月曜、祝日、年末年始、特別資料整理期間 資料費 210万円(図書費153万円、雑誌、新聞ビデオ 57万円) 蔵書数 54,986冊 町民一人当たり 7.83冊 リクエスト受付1,039件	3.7
	(反省・意見)	
	本の貸出冊数は、51,014冊。町民一人当たりの貸出冊数は7.83冊で県下5番目です。	
	リクエスト受付 1,039件。もっと町民に本に親しんで貰えるために、どのような取組をすればよいか、もっと立案する。	
(2) お話宅配便の充実	5月と11月の読書週間に合わせ、各学区の公民館を巡回して絵本の読み聞かせ・パネルシアター・エプロンシアターなどの実演を通じて、子供達が、本に親しみが持てるように図った。 総参加者数 348名 貸出総数 202冊	3.6
	(反省・意見)	
	子供達が348名も参加されたことは、ある意味努力が報われたと考え、本に親しむ子供が増えたと考えられる。	
	もっと親子で参加して貰うための時間帯や内容を工夫していく。	
(3) 図書館まっりの充実	年1回、図書館まつりがあり、下平川小学校保護者・知名町立図書館職員による絵本の読み聞かせ・エプロンシアター・ペープサート等を通じて子供達が本好きになるように図った。 総参加者数 190名	3.7
	(反省・意見)	
	図書館まつり・ワークショップにおいては、親子読書会及び絵本作家の鈴木のりたけ先生を招へいして行い、親子連れの参加が目立った。	
	町内の行事と重ならないよう、また、町民のニーズにあった作家さんと呼べるようアンケートなど実施していく。	
(4) ブックスタートの充実	年6回 図書館にて6ヶ月の幼児を対象に、オススメ絵本2冊、よだれかけ、県立図書館絵本ガイド等が入った「ブックスタートパック」を配付し、絵本の読み聞かせのポイント等のアドバイス・ベビーマッサージ・手遊びなどを行った。37名参加	3.6
	(反省・意見)	
	これまでの活動を写真等で展示し、参加者アンケートを実施して改善を図っていく。	
(5) おはなしの時間の充実	毎月第2・4土曜日にその月のテーマにあった絵本・紙芝居・エプロンシアター等の実施と簡単な工作を行っているが、子供達を絵本・紙芝居等を通じて本好きにできているか。参加者数 281名	3.6
	(反省・意見)	
	知名地区の子供達が毎回参加しているように思う。それ以外の校区の子供達が来てくれるように、ポスター等で周知を図っていく。	

教育行政評価委員意見のまとめ

1 社会教育関係について

(1) 社会教育指導体制の充実

社会教育委員会を年 1 回開催して、社会教育に関する諸立案に取り組んでいるが、今後、教育委員や町長等との意見交換の場も考慮してみてはどうでしょうか。

(2) 青少年教育の充実

青少年育成連絡協議会(年 4 回)開催、青少年ふるさと美化活動等の実践活動を通して豊かな心を育み、さらには住吉貝塚について学ぶ事により自分たちのふるさとに誇りを持たせるための「えらぶっ子のつどい」等の実施は継続して欲しい。

子ども会活動のあり方やリーダーの役割等についての研修をサマーキャンプで実施したり、大島地区ジュニアリーダー研修会への参加を通してリーダーを育てる事は大切であるので今後も進めて欲しい。

町 P T A 研究大会の運営も大変だと思いますが、時代にマッチした工夫をして会員相互の資質向上や連携を深めていくことは大切である。

がんばっている子供、団体を認めてあげ、褒めて表彰する「知名の子表彰」への取り組みは素晴らしい。

町民が、関心を持って子供たちの活動を見守る場面が増えていくことを期待したい。

(3) 芸術文化活動の促進

町民の多様な芸術文化活動の成果を発表する場として多くの行事が計画実施されており、発表者の技能向上に寄与すると共に町民の多数が鑑賞し娯楽の場、情操豊かな生き生きとした町づくりに大いに貢献している。(五月の祭典、生涯学習フェスティバルの舞台・作品展示、子ども芸能祭、沖永良部音楽コンクール等)

また、島唄島ムニを保存伝承するための「島唄島ムニ大会」も恒例行事となっているが、マンネリ化を防ぐ工夫として外国人による島ムニ発表もあり良かった。町内に在住の外国人も多くいるのでその人たちの日本語学習発表の場としても今後期待している。

(4) あしびの郷・ちなほの活用

町民の生涯学習活動の拠点施設として、自主文化事業による町民創作ミュージカル「えらぶ百物語」の上演やクラシック音楽鑑賞、公演、劇団道化メンバーと中学生の共演、児童に音楽鑑賞の場、南西航空音楽隊コンサート等の年間を通して各種イベントが計画的に実施されており、効率的な活用がなされている。(音楽世界一周の旅コンサート、津軽三味線、民謡の花束「祖先心」、町民創作ミュージカル「えらぶ百物語」、劇団道化「吉林食堂」、学校公演、南西航空音楽隊ファミリーコンサート、生バンドのカラオケ等)、上

記のような多彩なイベントのお陰で多くの町民が、トップアーティストの演奏鑑賞や町民創作劇等の素晴らしい演技に感動する場ができていることは「教育・文化の町」として喜ばしい限りである。今後も、同様の事業及び更なる新しい取り組みを推進して欲しい。

(5) 文化財の保護活用

本町には、県指定・町指定の文化財として種別では天然記念物、名勝、建造物、有形民族文化財、民族資料、史跡、芸能等が多くありその案内板や史跡の説明文も掲示してあり観光旅行者にも役立っている。さらには、資料保存館の整備並びにそれら貴重な資料をDVD等記録媒体に保存する取り組みなども推進して欲しい。また、国指定史跡住吉貝塚への整備検討委員会の開催や史跡、貝塚の測量・確認調査も実施されているので成果に期待している。

そして、「奄美遺産」探しの一環として地域遺産の掘り起こしや史跡巡り講習会、体験活動等も文化財保護審議会と連携しながら、町内の文化財の普及啓発を進めることは大切なことである。各集落の伝統芸能の保存、伝承についても保存会をバックアップして推進して欲しい。

(6) スポーツ・レクリエーションの推進

町民が楽しく豊かな心で充実した生きがいを感じる日々を過ごすためには、心身共に健康でなければならない。幼児から高齢者にわたる町民のニーズに対応したスポーツ・レクリエーションの推進に努めていることは評価に値する。町体協のスポーツ大会やスポーツ少年団の各種大会、町内一周駅伝競走大会、高齢者いきいきスポーツ大会等は町民の楽しい行事となっている。

また、ボルカ鹿児島によるサッカー教室、村田諒太選手のスポーツ講演など外部講師招へいによるイベントは多くの町民に感動を与えているので、可能な限り計画して欲しい。本町に適した総合型地域スポーツクラブの設立及び指導者の養成に向けた取り組みも進めて欲しい。

2 公民館関係について

(1) 公民館講座の充実

生涯学習社会における町民のニーズに応えるために多様な講座を開設して、多くの受講生が自発的に学習し、その学習の成果を発表したりして充実感を味わった心豊かな生活が出来ていることは素晴らしいことである。講座の開設については、講師・指導者の不足や依頼等で御苦労もあるかと思いますが工夫・努力して継続して欲しい。

(2) 自治公民館研修会の充実

自治公民館の機能・役割や自治公民館長としての区長の仕事は何か明確に町民が理解しているか疑問である。どのようなことを研修して、そのことを字運営に繋げているのかがよく分からないのが現状ではないでしょうか。検討が必要である。

(3) 短歌コンクールの実施

小学校、中学校の児童生徒の応募者が多いのは、各学校の取り組みが組織的に出来ているからであろう。一般の応募は、組織としてのまとまりはなく関心のある人だけで限られている。当初は、短歌大賞や優秀賞を目指して応募した人も、それが叶うと満足してその後は応募しなくなっていると思われる。底辺を拡大するためには、婦人会や老人会とか白百合大学等の組織に働きかけてそれらの団体の活動の一つとしても俳句・短歌づくり等を勧めて見てはどうでしょうか。

(4) 町民作品展示会の開催

中央公民館の展示コーナーに竹細工や公民館講座の作品等が展示されていて良いが、折角の作品展示をどれほどの町民が鑑賞しているのか気になることでもある。特別の作品展示が有る場合には、広く広報して欲しい。

(5) コミュニティーづくり推進協議会の開催

「明るく豊かな町づくり」を目指して、毎年度のように重点実践事項及び「申し合わせ事項」について各種団体の代表等がコミュニティーづくり推進協議会で協議して、その実践状況についても意見交換がなされている。実践事項によってはその浸透状況に差異はあるが、持参金 3,000 円も数年前よりは守られて来ていると実感している。

また、「申し合わせ事項」の浸透のためには、町当局の広報は勿論のこと、推進協議会に参加している各種団体の代表等がそれぞれの団体会員に会合等で話し理解させる。

特に字区長は、総会や常会等で説明して実践状況を把握する必要があると思う。さらには、推進会員や官公庁職員は、祝日の国旗掲揚、美化活動、持参金等の実践を率先垂範して浸透を広げていく事が大切ではないでしょうか。

(6) 成人式の実施

新成人者が司会、アトラクション等を計画して、来賓や家族の見守る中で、華やかで整然とした成人式が対象者の 90%以上参加して開催されており素晴らしい。

3 図書館関係について

(1) 図書館運営の充実

図書の貸出冊数 51,014 冊、町民一人当たり 7.83 冊は、県下 5 番目で毎年のように上位にランクされており、少ない職員による努力のたまものと言えよう。さらなる取り組みに期待したい。

(2) お話宅配便の充実

町図書館での業務だけでなく、各学校区の公民館を巡回しての読み聞かせやパネル

シアター、エプロンシアター等の実演を通して本に親しむ機会を提供していることは大変素晴らしいことであり継続して欲しい。

(3) 図書館まっりの充実

保護者や職員が講師になって、読み聞かせ、エプロンシアター・ペープサート等を通して本好きな子どもを育てる取り組みは良いことである。また、外部講師の招へいによる企画は可能な限り進めて欲しい。

(4) ブックスタートの充実

6ヶ月の幼児・母親を対象に「ブックスタートパック」を配付して、読み聞かせのポイント、ベビーマッサージ、手遊びを通して幼児の頃から本に親しませる取り組みは大変素晴らしいので参加者が増える工夫をして欲しい。

(5) おはなしの時間の充実

毎月2回テーマに沿った絵本・紙芝居等を通して、本好きな子どもを育てる取り組みは素晴らしいので今後も継続して欲しい。知名地区の子どもが多いのは、距離的な事からやむを得ないと思うが工夫できることがあればして欲しい。

[総 評]

教育行政評価委員は、平成24年度については教育委員会生涯学習課が担当している社会教育関係・公民館関係・図書館関係の各分野について1年間の事業実施内容とその自己評価及び成果と反省点・課題等についての資料で、課長から具体的に説明を受けた。

生涯学習課が担当している分野は町民が楽しく、生きがいを持ち豊かな心で充実した生活を送るための事業が多く、少ない職員で努力工夫しながら成果を上げていることが伺えて高く評価します。

今回の自己評価及び成果と反省点・課題等を踏まえて、さらなる成果を目ざすと共に今後に残されている課題への取り組みが、計画的に推進されることを願っている。